

ダニエル書5章「安逸の後の破壊」

1A 神に対する冒瀆 1-4

2A 恐怖のしるし 5-12

3A 終わりの宣言 13-28

1B 質問 13-16

2B 説教 17-23

3B 解き明かし 24-28

4A 突然の破滅 29-31

本文

ダニエル書5章を読んでいきます。私たちは、これからバビロンがメディア・ペルシヤ連合軍によって崩壊するその前夜について見ていきます。この章の、聖書全体における意味づけはとても大きいです。私たちは預言書をイザヤ書、エレミヤ書と学びましたが、それぞれにバビロンが倒れることについて、数々の預言を行なっておられます。そして新約聖書には、なんとイエス様が再臨される直前に、バビロンが出て来ます。黙示録 17-18 章です。そこで主が再臨されるにあたって、その前にバビロンが崩壊することが預言されています。これから見ていく出来事は、世界史の中では新バビロニア帝国と呼ばれているものの崩壊であります。主は、イスラエルに対する救いのご計画、そして人類全体の救いのご計画の中に、重要な意味を持たせる出来事としておられます。霊的には、次の使徒ヨハネの言葉が端的に言い表していることでしょう。「1ヨハネ 2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。」

1A 神に対する冒瀆 1-4

5:1 ベルシャツアル王は、千人の貴人たちのために大宴会を催し、その千人の前でぶどう酒を飲んでいた。

時は紀元前 539 年のことです。ネブカデネザルは紀元前 562 年に亡くなっています。彼の息子エビル・メロダクがその後を継ぎました。彼は、列王記第二の最後とエレミヤ書に出てくる、ユダの王エホヤキンを丁重に取り扱った人です(2列王 25:27-28)。けれども、その生活は乱れており、無責任であったため、二年後ネリグリサル(Neriglissar)という者に殺されています。ネリグリサルは、エレミヤ書 39 章 3 節に出てくる、エルサレムの町に入ったバビロンの首長の一人「ネルガル・サル・エツェル」です。彼が王位を取り、彼が死んだ後、息子が跡を継ぎましたが、すぐにナボニドスはその息子を暗殺しました。

ナボニドスは、きわめて宗教的な人でした。彼の母が、ハラン(創世 11:31)における月の神の、

大・女祭司だったからです。(アブラハムがバビロンのウルの町を出て、カナン人の地に行く前に、父テラのせいでハランの町にとどまりました。)彼はバビロンの宗教を再興し、多くの寺院を再建しました。そしてアラビア地方を攻めて、テイマ(Teima)に暮らしていました。つまり政治の世界から離れていたのです。そしてナボニドスは自分の長男であるベルシャツアルを立てて、都バビロンにて共同統治を行なわせました。ですから第一の権力は自分ナボニドスなのですが、第二の権力者がベルシャツアルであり、それで後でベルシャツアルが文字の解き明かしをした者に、「**第三の権力を持たせよう**」という褒美を与えようとしているのです。

ベルシャツアルが千人の貴人のために大宴会を催しているということ、そして彼が彼らの前でぶどう酒を飲んでいるということ、これ自体は古代の王国においてはよく見られる光景でありました。エステル記のことを思い出してください、1章でアハシュエロスが、すべての首長と家臣たちのために宴会を催したとあります。それは、王国の輝かしい富と、そのきらびやかな富を示すためであり、金の杯で酒をふるまっています。その杯は一つ一つ違っていた、とまで書いてあります。そして王が酒で陽気になり、自分の妻、王妃ワシュティを連れて来るように命じたのですが、彼女が拒んでそれで王妃の座から追い出しました。これはペルシヤ時代ですが、バビロン帝国においてもこれを行っていたのです。

けれども問題は、今、この時点ではそのような宴会をする時期では全くなかったということです。実に、バビロンの都はメディア・ペルシヤ連合軍によって包囲されていたのです。前に、今のイランにあるエラム州からクロスが出現していました。彼がメディアと戦ってペルシヤがメディアを併合しました。ペルシヤ軍はバビロンの多くの地域を征服しており、今、都バビロンを包囲していたのです。ところが、なぜかベルシャツアルは、千人の貴人らのために大宴会を催していたのです。これは、異常事態であります。無感覚になっています。

霊的には、目を覚ましているべきところが、眠っており、酔いしれていると言ってよいでしょう。パウロは、テサロニケの人たちにそのようにならないように、と励ましを与えています。「1テサロニケ 5:7-9 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあつて救いを得るようにお定めになったからです。」バビロンの崩壊は、まさに神の怒りを現しています。私たちは昼の者、光の子供にさせられているので、怒りに会うことはありません。だからこそ、その希望をしっかりと持ち、信仰と愛を胸にあてて、今の霊の戦いが激しい時を生き抜くのです。

ベルテシャツアルは、自分は安全だと思っていました。バビロンの町の防備は半端ありませんでした。町は一辺が約 22.5 キロの正方形をしていました。二重の城壁になっており、一つの厚さは 26.5 メートルほどです。歴史家ヘロドトスは、城壁の上を馬が引く戦車が四車線通行をできたこと記

しています。そして高さが約 107 メートルです。地下にも奥深く壁が入っていたと言われています。そして南北にユーフラテス川が流れています。川からの進入を防ぐために、もちろん南北の水門のところには大きな柵があり、そして川の両岸にも壁がありました。橋がかかっている、そこからしか東西の地域に行き来できませんでした。その他にも高い塔、青銅の門など防備においてはこれほど頑丈なものはありませんでした。そして、クロスがどんどん進出してきたので、備蓄をしていました。20 年ぐらい食べられる食糧もありました。ユーフラテス川が中央を流れていますから、水の確保には全く問題がありません。だからベルシャツアルは大宴会を催したのです。「私たちは難攻不落である。無敵であり、不滅である。」と誇示したかったに違いありません。でも、どうでしょうか？その夜にペルシャ軍はこの宴会場まで入ってきて、ベルシャツアルを殺したのです。それほどろいのです。使徒パウロは言いました。「1テサロニケ 5:3 人々が『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。」

5:2 ベルシャツアルは、ぶどう酒を飲みながら、父ネブカデネザルがエルサレムの宮から取って来た金、銀の器を持って来るように命じた。王とその貴人たち、および王の妻とそばめたちがその器で飲むためであった。5:3 そこで、エルサレムの神の宮の本堂から取って来た金の器が運ばれて来たので、王とその貴人たち、および王の妻とそばめたちはその器で飲んだ。5:4 彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した。

どうしてこの機に及んで、わざわざエルサレムの神殿から取って来た器を持ってこさせたのか？ネブカデネザルがこれらの器を持ってきたのは、紀元前 605 年のことですから、もう 66 年前のことです。1 章 2 節ですが「主がユダの王エホヤキムと神の宮の器具の一部とを彼の手に渡されたので、彼はそれをシヌアルの地にある彼の神の宮に持ち帰り、その器具を彼の神の宝物倉に納めた。」とあります。そして、その器にぶどう酒を注ぎ、さらにはバビロンの神々であった、「金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した」とあります。明らかに、バビロンの神々がエルサレムの神々よりも優れているということを誇示したかったのだと思われます。後でダニエルが、ネブカデネザルが天の神によってへりくだらされたことを話しています。獣のようになったことを話しました。そして、「5:22 これらの事をすべて知っていながら」と言っています。ですから、ベルシャツアルは意図的に反抗していたのです。バビロンの神々にまさる方であることを、ネブカデネザルは証したのですが、そんなことはない、私が偉大であり、バビロンの神々が偉大なだと虚勢を張っています。

ところで、主はこのような時に、怒りを発せられます。パロが、イスラエルの民を虐げた時に、モーセとアロンがわたしの民を出て行かせなさいと言っても、「主とはだれだ。私は知らない。」と言って、不遜にふるまい、エジプトの魔術師を信じました。アッシリヤがエルサレムを包囲した時に、他の外国の神々はアッシリヤに打ち勝つことができなかつたのに、なぜエルサレムの神が打ち勝つことが出来ようか、と挑みかかり、他の神々とエルサレムの神を一緒くたにしたので、神はアッシリヤを打ち砕くことをお定めになりました。神は、それまでは、そうした神々を放置しておられるので

す。ご自身の栄光をそのような形で暗ますものを、裁かれます。これは、私たちが異教の社会に生きている時に大事な真理です。神社仏閣を見て、これは偶像礼拝だからいけないのだ！と路傍に出て叫ぶでしょうか？いいえ、イエス・キリストの福音を知っていただくことが神の御心です。けれども、自分に罪があることを拒み、意図的にキリストの十字架は要らないとするならば、罪のための赦しがもはやなく、神の怒りがその人に留まることになります。

2A 恐怖のしるし 5-12

5:5 すると突然、人間の手の指が現われ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側の所に物を書いた。王が物を書くその手の先を見たとき、5:6 王の顔色は変わり、それにおびえて、腰の関節がゆるみ、ひざはがたがた震えた。

「王の宮殿の塗り壁」であります。バビロンの遺跡の中で発見されています。宮殿の宴会場は、幅が約 17 メートル、長さが約 53 メートルという広いところです。そこに王が着座していたのではいかと思われるくぼみが真ん中にあり、その後ろに白い塗り壁が見つかっています。燭台によって、煙が出ていたことでしょう、しかしその壁を照らしていたものと思われます。そこに、この人間の手の指が現れて、物を書き始めたのです。こうやって、エルサレムの神殿の器、金の杯を使ってぶどう酒を飲み、バビロンの神々を賛美して誇り高ぶっていたその虚勢は、一気に恐怖へと変えられました。その様子は、まるで漫画のようです、関節が外れて、膝ががたがたに震えています。覚えていますか、イザヤが、ペルシヤの王クロスが来ることを預言した時に、「わたしは、..王たちの腰の帯を解き(45:1)」と主は言われました。

5:7 王は、大声で叫び、呪文師、カルデヤ人、星占いを連れて来させた。王はバビロンの知者たちに言った。「この文字を読み、その解き明かしを示す者にはだれでも、紫の衣を着せ、首に金の鎖をかけ、この国の第三の権力を持たせよう。」5:8 その時、王の知者たちがみなはいて来たが、彼らは、その文字を読むことも、王にその解き明かしを告げることもできなかった。5:9 それで、ベルシャツアル王はひどくおびえて、顔色が変わり、貴人たちも途方にくれた。

ベルシャツアルは、大声で叫びました。呪文師、カルデヤ人、星占いを連れて来させています。そして、すぐにこれを解き明かすのであれば、褒美をあげると言っています。非常に俗的な人間であると感じます。聖なる神の現れに対して、ただ怯えるだけで、とにかくその恐怖から免れたいがばかりに、法外な報酬で家臣たちを動かそうとしています。ネブカデネザルとは対照的です。彼は初めの幻の時は心が騒いでいると言いました。そして、自分が獣のようになってしまう幻では、脅かしたとあります。そこには、何かとてつもない畏怖に近いものを感じて、そこにあるメッセージを受け取ろうとしています。ベルシャツアルにはありません。非常に俗的です。

そしてここに、「第三の権力」が出て来ます。父はナボニドスであり、第一の権力です。自分は第

二の権力です。そして自分の次に第三の権力を与えると言っています。

5:10 王母は、王とその貴人たちのことを聞いて、宴会の広間にはいって来た。王母は言った。「王よ。永遠に生きられますように。おびえてはいけません。顔色を変えてはなりません。

王母が出て来ました。ネブカデネザルの妻あるいは、娘であったでしょう。ですから、直接、ダニエルのことを知っています。今、千人の貴人が静まり返っている時に、普段は控えめにして前に出てこない王母がやってきて、彼を励まそうとしています。

5:11 あなたの王国には、聖なる神の霊の宿るひとりの人がいます。あなたの父上の時代、彼のうちに、光と理解力と神々の知恵のような知恵のあることがわかりました。ネブカデネザル王、あなたの父上、王は、彼を呪法師、呪文師、カルデア人、星占いたちの長とされました。5:12 王がベルシャツアルと名づけたダニエルのうちに、すぐれた霊と、知識と、夢を解き明かし、なぞを解き、難問を解く理解力のあることがわかりましたから、今、ダニエルを召してください。そうすれば、彼がその解き明かしをいたしましょう。」

王母は、ネブカデネザルがダニエルを評価したとおりのことを話しています。ネブカデネザルは、ダニエルに、「あなたには聖なる神の霊がある(4:18)」と言いました。そして、光と理解力があり、神のような知恵がある。そして、あらゆる知者の長としていたということ。そして夢や謎、難問を解く理解力があること、全て話しました。

ところで、ベルシャツアルに対してネブカデネザルを「父上」となっています。実際はナボニドスの父なので、彼にとって祖父である可能性が大きいですが、けれどもその影響下にあり、権威や系統の中にいれば、祖父であっても先祖であっても、「父」と呼びます。新約時代には、ユダヤ人宗教指導者が「私たちの父はアブラハムです」と言いました。キリスト者に対しても、彼の信仰の足跡に従って歩むなら、彼は父であるとローマ 4 章 12 節にあります。そして事実、そんなに年が離れているわけではなく、ネブカデネザルが王であった時、彼は十代にはなっていたであろうと考えられます。

3A 終わりの宣言 13-28

1B 質問 13-16

5:13 そこで、ダニエルは王の前に連れて来られた。王はダニエルに話しかけて言った。「あなたは、私の父である王がユダから連れて来たユダからの捕虜のひとり、あのダニエルか。5:14 あなたのうちには神の霊が宿り、また、あなたのうちに、光と理解力と、すぐれた知恵のあることがわかった、と聞いている。5:15 先に、知者、呪文師たちを私の前に召して、この文字を読ませ、その解き明かしを私に教えさせようとしたが、彼らはそのことばの解き明かしを示すことができなかった。

5:16 しかし、あなたは解き明かしができ、難問を解くことができると聞いた。今、もしあなたが、その文字を読み、その解き明かしを私に知らせることができたなら、あなたに紫の衣を着せ、首に金の鎖をかけさせ、国の第三の権力を持たせよう。」

ベルシャツアルは「聞いている」という言葉を繰り返しています。8章でダニエルは、ベルシャツアル王の治世の第三年に、幻の中で「エラム州のシュシャンの城にいた。(2節)」とあります。そこは後にペルシヤ帝国の首都になる町ですが、彼は既にその地方の官吏として左遷させられていたのではないかと考えられます。ネブカデネザルがいなくなってから既に20年そこそこ経っていたでしょうが、しかし彼は知らなかったわけではありません。エルサレムの神の宮からの器を持ってこさせたのですから、そしてダニエルが後で明かすように、ネブカデネザルが天の神の前で卑しめられたことを知っているのですから。情報として知らなかったのではなく、心を頑なにしているから知らなかったのです。「ローマ 1:21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。」

2B 説教 17-23

5:17 そのとき、ダニエルは王の前に答えて言った。「あなたの贈り物はあなた自身で取っておき、あなたの報酬は他の人にお与えください。しかし、私はその文字を王のために読み、その解き明かしをお知らせしましょう。」

ダニエルは、「王よ、永遠に生きられますように。」という挨拶言葉を飛ばしています。いくら挨拶言葉だとしても、もうその日に殺されてしまう事を告げるのですから、そんな言葉使えませんね。そして、きっぱりと、贈り物を受け取ることを断っています。聖なる人、神の人として何でも報酬で済ませようとする俗なるものを受け取ることを拒んだのです。アブラハムもかつて、ソドムの王に同じように対応しました。ロトを救出した後に、サレムの王メルキデゼクが彼を祝福しました。アブラハムは彼に十分の一を捧げました。その後ソドムの王が来ました。「財産はあなたが取ってください。」と言ったところ、アブラハムはこう答えました。「私は天と地を造られた方、いと高き神、主に誓う。糸一本でも、くつひも一本でも、あなたの所有物から私は何一つ取らない。それは、あなたが、『アブラムを富ませたのは私だ。』と言わないためだ。(創世 14:22-23)」アブラハムは、自分を富ませている神の栄光をソドムの王が奪い取りはしないかと懼れたのです。イエス様はヘロデの前で、同じ態度を取られました。奇跡が何かやってくれるだろうと思っていたヘロデに対して、口を一切開きませんでした。こう言われましたね。「聖なるものを犬に与えてはなりません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。(マタイ 7:6)」

5:18 王さま。いと高き神は、あなたの父上ネブカデネザルに、国と偉大さと光栄と権威とお与えになりました。5:19 神が彼に賜った偉大さによって、諸民、諸国、諸国語の者たちはことごとく、彼の前に震え、おののきました。彼は思いのままに人を殺し、思いのままに人を生かし、思いのま

まに人を高め、思いのままに人を低くしました。5:20 こうして、彼の心が高ぶり、彼の霊が強くなり、高慢にふるまったので、彼はその王座から退けられ、栄光を奪われました。5:21 そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野ろばとともに住み、牛のように草を食べ、からだは天の露にぬれて、ついに、いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになることを知るようになりました。

ダニエルは 4 章で起こった出来事を、語っています。第一に、ネブカデネザルに国と偉大さと光栄、権威があったのは、あくまでも、いと高き神が与えられたものです。第二に、その権威によって、王は自分の思いのまま、その主権によって何でもすることができました。そこで第三に、彼はその力が自分のものであるとして、高ぶったのです。第四に、その高ぶりのゆえに王座から退けられ、獣のようになってしまいました。けれども、第五に彼は、人間の国はいと高き神が支配しておられることを知り、また御心のままに王を立てられることを知りました。これは、とても辛い体験でありましたが、彼はそれでもその懲らしめから学び、へりくだることができたのです。

5:22 その子であるベルシャツアル。あなたはこれらの事をすべて知っていながら、心を低くしませんでした。5:23 それどころか、天の主に向かって高ぶり、主の宮の器をあなたの前に持って来させて、あなたも貴人たちもあなたの妻もそばめたちも、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。

「知っていながら」です。自分の祖父ネブカデネザルが獣のようになって、草を食べる生活を送っていたとき、彼はおよそ 14 歳でした。もう、何が起きているのかはつきり分かっていたはずです。イエス様は、「多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。(ルカ 12:48)」と言われます。そして、「天の主に向かって高ぶり」とあります。エルサレムの神がネブカデネザルをそのようにされたおなら、大胆にも「俺は、そんなことにはならないぞ」ということで、敢えて、神殿の金の器でぶどう酒を飲んだのです。アッシリヤの王がエルサレムにいるヒゼキヤ王を脅迫したとき、主は、彼に対してこう答えられました。「あなたはだれをそしり、ののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。イスラエルの聖なる方に対してだ。(イザヤ 37:23)」ユダヤ人は所有の民、イスラエルは主の所有の地でした。ここでは、主の所有の器です。どんなものでも主はご自身がそしりを受けたとみなされます。

さらに、偶像の空しさをダニエルは述べています。「見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々」です。有名なのは、詩篇 115 篇です。「115:4-7 彼らの偶像は銀や金で、人の手のわざである。口があっても語れず、目があっても見えない。耳があっても聞こえず、鼻があってもかげない。手があってもさわれず、足があっても歩けない。のどがあっても声をたてることもできない。」それから、「あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神

をほめたたえませんでした」という言葉は究極の皮肉です。天の神など知らないのだ、と発しているその息が、天の神によって造られているのですから。

3B 解き明かし 24-28

5:24 それで、神の前から手の先が送られて、この文字が書かれたのです。5:25 その書かれた文字はこうです。『メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。』5:26 そのことばの解き明かしはこうです。『メネ』とは、神があなたの治世を数えて終わらせられたということです。5:27 『テケル』とは、あなたがはかりで量られて、目方の足りないことがわかったということです。5:28 『パルシン』とは、あなたの国が分割され、メディアとペルシヤとに与えられるということです。」

おそらく、アラム語の子音のみの文字だったのではないかとされています。母音がないので、何のことが分からなかったのです。それをダニエルが解釈しました。「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」です。意味はメネが「数える」、テケルが「量る」、そして「ウ・パルシン」は「分ける」です。けれども、その言葉が分かっても意味を解き明かさなければいけません。メネの「数える」が表しているものは、彼の治世です。神は数えて、それを終わらせられました。テケルの「量る」が表しているのは、彼の行ないです。天秤で量られて、目方が足りないことが分かったということです。そしてウ・パルシンの「分ける」が意味しているのは、メディア・ペルシヤがバビロンを倒すことです。二つに分割されます。(24-28 節については、午前礼拝の説教をお聞きください。)

4A 突然の破滅 29-31

5:29 そこでベルシャツアルは命じて、ダニエルに紫の衣を着せ、金の鎖を彼の首にかけさせ、彼はこの国の第三の権力者であると布告した。

彼は、ダニエルのこの言葉に先ほど約束したとおりの報酬を与えます。けれども、そんな第三の権力者など、もう治世が数えられているという解き明かしなのに、全く意味がありません。この時点であっても、彼はこの言葉を自分のこととして受け入れていなかったのでしょうか。

5:30 その夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺され、5:31 メディア人ダリヨスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。

「その夜」であります。あっけなく殺されます。愚かな金持ちのことを思い出しますね、「ルカ 12:20 愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。」

私たちはイザヤ書において、クロス王の預言のところで学びました。ペルシヤの王クロスは、バビロンの町を攻略するためにユーフラテス川を迂回させる計画を立てました。バビロンの町を南北

に流れる川で、北の上流のほうを近くの湖にまで送る水路を掘らせました。そして、軍をユーフラテス川がバビロンの中に入って行く所と、南の、川が流れ出るところに配置させました。ベルシャツアルは、川の迂回工事を、町の外に要塞でも建てているのだろうとぐらいしか考えていなかったに違いありません。そして、川の水かさが減っていきました。そこで柵の下を通れるほど浅くなり、中に入っていました。けれども川の両側は壁です。東西をつなぐ橋のところまで行きました。そこにももちろん門があり、普通は閉められているのですが、その日は何と宴会のために門番も泥酔していて、その青銅の門が開いていたのです！それで難なくペルシヤ軍は宮殿の中に入ることができ、その宴席の場でベルシャツアルを殺したのです。

そして話は6章に続きますが、バビロンを倒した後はすぐ、暫定的にメディア人のダリヨスが王として統治します。イザヤとエレミヤの預言には数多く、バビロンを倒す者としてメディア人の名が出て来ます。

ダニエルはベルシャツアルが殺されることを一文で終わらせていますが、イザヤもエレミヤも、膨大な言葉でもってこのことを預言していました。それだけ、神にとって私たちに、ご自分の救いの計画にとって大きな意味を持たせておられるのです。その一部を読みたいと思います。エレミヤ書50章です、22節から読んでみます。

50:22 「国中には戦いの声、大いなる破滅。50:23 万国を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ。どうして国々の恐怖となったのか。50:24 バビロンよ。わたしがおまえにわなをかけ、おまえは捕えられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられてつかまえられた。おまえが主に争いをしかけたからだ。

そうです、ベルシャツアルの問題は、主へ反抗心です。主に争いをしかけていました。

50:25 主はその倉を開いて、その憤りの武器を持ち出された。それは、カルデヤ人の国で、万軍の神、主の、される仕事があるからだ。50:26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。50:27 その雄牛をみな滅ぼせ。ほふり場に下らせよ。ああ。哀れな彼ら。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」50:28 聞け。バビロンの国からのがれて来た者が、シオンで、私たちの神、主の、復讐のこと、その宮の復讐のことを告げ知らせている。50:29 射手を呼び集めてバビロンを攻め、弓を張る者はみな、これを囲んで陣を敷き、ひとりものがすな。そのしわざに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。

そうです、ダニエルが言ったとおりです、イスラエルの聖なる方に向かい高ぶったのです。

50:30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士もみな、断ち滅ぼされる。…主の御告げ。…50:31 高ぶる者よ。見よ。わたしはあなたを攻める。…万軍の神、主の御告げ。…あなたの日、わたしがあなたを罰する時が来たからだ。50:32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町に火をつける。火はそのまわりのものをすべて焼き尽くす。」

「高ぶる者よ」と主は繰り返しておられます。そして飛ばして51章7-8節を読んでみます。

7 バビロンは主の御手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲んで、酔いしれた。8 たちまち、バビロンは倒れて砕かれた。このために泣きわめけ。その痛みのために乳香を取れ。あるいはいやされるかもしれない。

「主の御手にある金の杯」という預言です。そして、これが国々が酔いしれているとあります。バビロンは諸国によって成り立っていた帝国でしたから、そういえるでしょう。バビロンに頼っていた者たちは痛手を被りました。

そしてこの出来事が、創世の時から始まっていた、反逆と権力の象徴バビロンの終焉を予告するものだったのです。バベルの町を建てたニムロデが、主に対して反抗する権力者であり、バベルの者たちは、神の御名ではなく自分たちの名を挙げるべく、天に届く塔を建てようとしていました。主がそれを阻止されました。そして終わりの日、大淫婦が金の杯をもって世界の王たちと不品行を行なっています。「黙示 17:4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手にとっていた。」とあります。そしてこの女は、女の乗っていた獣によって食われて、荒廃することが預言されています。18章には、商人たちの極度の好色による富が、一日のうちに荒れ廃れてしまうことが書かれています。

私たちはちょうど、成増バイブルスタディで今、私たちキリスト者も眠りからさめて、主の下さる救いのための心備えをしなければいけないことを学びました。そこを読んで終えたいと思います。「ローマ 13:11-14 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエスキリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」